

関西学院大学都市研究会 × 西脇市若手職員

提言書作成までの経緯

人口減少時代のまちづくりにおける課題

- ◆人口が1万人近く減少、人口の低密度化が進む
42,377人（2015年） → 32,774人（2040年）
- ◆生産年齢人口が減少し、高齢化率は約4割に上昇
- ◆消費が低迷し、商業施設の撤退
- ◆医師や福祉施設の不足
- ◆少子化による児童数の減少、学校の再編の可能性
- ◆高齢化による廃業、空き農地・空き家の増加



★ これらの課題を若者の視点、外部の視点で解決できないか？



2040年の西脇市を魅力あるまちにするために

関西学院大学都市研究会

×

西脇市若手職員

コラボ！

これからの西脇市が目指すべき姿について
若者・ヨソモノならではの発想で提案！
自分たちが社会をリードする世代となる
2040年に向けた提言を行います！

◆これまでのとりくみ①

◆西脇市内のまちあるき 6月6日(土)

魅力あるまちについて考えるヒントを得るため、
自分たちの足でじっくりと市内を歩き回る



童子山を散策中



経緯度交差点にて

◆これまでのとりくみ②

◆合同ワークショップを計3回実施

9月19日（土）、12月12日（土）、1月16日（土）

大学生、若手職員の合同で開催（各回約20名が参加）

- ・西脇市のSWOT分析

- ・2040年に目指すべき「まち」「ひと」「しごと」とは？

★ワークショップ以外にも、自主的にスカイプ会議などを実施



ワークショップ中の風景

提言書の概要

人口減少社会を迎える中で、西脇市を魅力あるまちにしていくための方法を、3つの分野において提案

◆まち

人と人がつながりを強化できる小さな拠点づくり

◆ひと

3世代が交流し、結婚・出産・子育てのしやすいまちづくり

◆しごと

播州織の復活を中心としたまちの活性化と、自分に合った多様な働き方を選択できる環境づくり